

令和3年度鳥取看護大学・鳥取短期大学公開講座を開催しました

大学の知見を地域へ還元すべく平成5年より始まった、鳥取看護大学・鳥取短期大学公開講座（主催：倉吉市）の令和3年度全5回が12月に終了しました。コロナ禍の影響を受け、昨年度は1回も開催することができませんでしたが、今年度は延期を2回決断し、6月に1回、11月、12月に4回、「令和の時代をいきいき生きる～コロナ後の世界に向けて～」というテーマで実施することができました。新型コロナウイルス感染状況による突然の中止連絡にもご対応いただき、お集まりいただいた地域のみなさまに厚くお礼申し上げます。

これからも地域のみなさまの学ぶ意欲にお応えできるよう、さまざまなテーマで講座を開催していきたいと思っております。



大学見学会



12月22日(水)、上北条地区民生児童委員8名の方々が鳥取看護大学の見学に来学されました。

看護大学棟の附属図書館(別館)や実習室等を見学された後、交流センター中講義室にて、鳥取看護大学 早川大輔教授によるロコモティブシンドローム(略称：ロコモ) 予防に関するミニ講演会を聴講されました。参加者はロコモ予防の運動を実際に体験し、足腰の筋力の重要性や普段の運動の大切さを再認識されたようでした。

グローバルセンターでは、大学見学を随時承っております。お気軽にお問い合わせください。



絣研究室・美術館情報

鳥取短期大学絣研究室 令和4年度研究生募集

鳥取短期大学絣研究室では、伝統工芸「倉吉絣」の技術を習得する社会人向けの養成講座を開講しており、令和4年度研究生を募集しています。

募集期間：令和4年3月1日(火)
～3月31日(木)

定員：10名程度

開講期間：令和4年4月から1年間
毎週火・木曜日
9:30～16:30



絣研究室 修了作品展のおさそい

令和3年度絣研究室修了生の作品展を開催します。

期 間：3月25日(金)
～3月27日(日)
10:00～17:00

会 場：倉吉博物館
(倉吉市仲ノ町3445-8)

入 場 料：無 料
※修了作品展以外の常設展示を閲覧する場合は、別途入館料が必要です。
展 示 品：着物、袋物、テーブルセンターなど

グローバルセンターの活用法 ～大学見学会 編～

各種団体等での行事企画として、大学見学などいかがでしょうか。

「鳥取看護大学」や「鳥取短期大学」、「絣美術館・絣研究室」などを見学後、教授陣によるミニ講演会などを実施しています。申込票はホームページよりダウンロードしてご利用ください。

<発行> 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854
TEL:0858-27-0107 FAX:0858-26-9138 E-mail:global@cygnus.ac.jp

<印刷> 有限会社 矢積印刷 倉吉市宮川町2-36



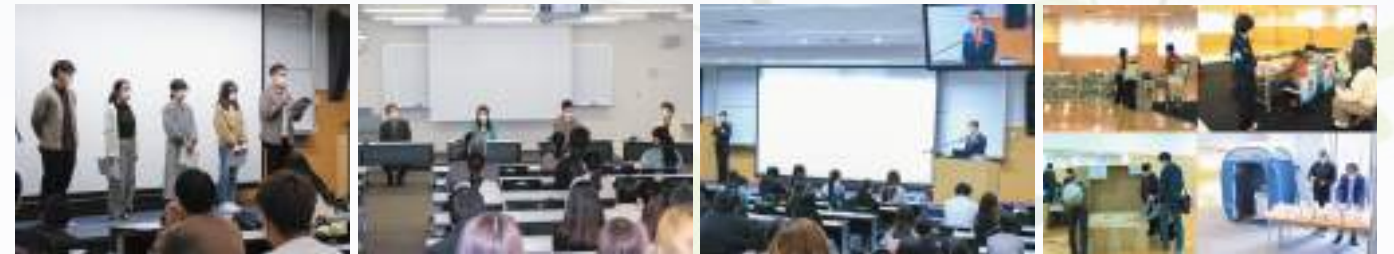
鳥取看護大学 グローカルセンターだより 鳥取短期大学 Glocal Center

第10号 2022.3.15発行

～地域とともに～

どうしてもコロナ抜きには語れない令和3年度でしたが、公開講座や大学見学会等で直接お会いする方々に勇気と元気をもらい、触れ合うことの実感した1年でもありました。グローバルセンターは、私たちの原点である「地域とともに」、この言葉に力をもらいながら、新年度も学生を、地域を巻き込む活動を行ってまいります！

鳥取県中部地震から5年、未来志向の防災・減災対策を学ぶ！



鳥取県中部地震の発生から5年となる10月21日(木)、本法人のシグナスホール大講義室をメイン会場に、「鳥取県中部地震5年フォーラム」を鳥取県と共催で開催しました。

当日は、平井伸治 鳥取県知事による開会講演をはじめ、基調講演や分科会、西尾浩一 鳥取県総務部長と鳥取看護大学の卒業生、両大学の在学生らによる意見交換などを行い、災害ケースマネジメントや、避難所の運営、災害時の状況などについて学びました。

受講した学生らは、未来志向の防災・減災対策を考え、安心なふるさと鳥取県を目指すため、「現役世代に求められる力は、地域と関わるための主体性である」、「安心を届けられるような建物造りをしたい」、「地域の避難誘導指揮者として認識され、いざという時に頼られる看護師・防災士になりたい」などと提言し、決意新たに取組んでいくことを誓いました。

フードドライブ事業に取組みました



フードドライブとは、家庭で余っている食べ物を職場などに持ち寄り、それらをまとめて福祉施設、フードバンク等に寄付する活動で、9月～10月にかけて鳥取県が鳥取県生活協同組合に委託し実施されました。本学では、教職員による持ち寄り活動と、学生に対しての配布活動の二つが行われました。使用予定のない食品を寄付するだけでなく、賞味期限までに食べきれなさそうなものを、「もったいないをありがとうに」というスローガンのもと寄付するこの活動は、特にコロナ禍で困窮する方々に寄り添うものであり、学生たちにもその手を差し伸べていただき感謝申し上げます。この活動が広がっていくようこれからも協力していきます。

おいしくてヘルシーなお弁当が完成！

～鳥取短期大学生生活学科×マルイ共同開発！～

令和3年春から、鳥取短期大学生生活学科食物栄養専攻と、株式会社マルイは食育弁当の共同開発に取り組んでおり、その第一弾「旬彩ヘルシーBOX」が1月22日より鳥取県、島根県、岡山県のマルイ全店で販売され、好評を博しました。完成までに学生たちは何度も試作をかさね、一日分の野菜の1/3が摂れる、春を先取りした色鮮やかなお弁当に仕上げています。また、弁当名やパッケージシール、POP広告は、同じく生活学科住居・デザイン専攻の学生が手掛けたものが採用されました。生活学科の学生たちの思いのこもったお弁当は秋に第2弾が発売される予定です。ご期待ください。ね。



パッケージシール

POP広告

コロナに負けない! 学生ダイアリー

★和紙のランタンをつくろう



11月4日(木)、「和紙のランタンをつくろう」を開催し、学生および教職員20人が参加しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年行っている台湾研修やニュージーランド研修が中止となるなか、多種多様な海外のランタンと比較しながら因州和紙を使用したランタンを製作しようと、鳥取短期大学国際交流委員会が企画しました。

膨らませた風船に薄めたボンドで下地の和紙を貼り付け、その上に色鮮やかな因州和紙を貼り付けていきますが、同色の和紙を使用しても、ちぎり方や重ね方によって全く雰囲気の異なるランタンができあがりました。翌日、風船を取り除いて形状を整え、ようやくランタンが完成し、A館1階入口近くのスペースに展示し点灯しました。参加した学生たちは、暗闇に浮かび上がるランタンの幻想的な光景を楽しみました。



☕ English Café



リラックスした雰囲気の中で英会話を楽しむことを目的に、グローバルセンターは国際文化交流学科と協働して、English Caféを定期的で開催しています。今年度は7月、10月、12月の計3回開催し、延べ27名の学生および教職員が参加しました。

12月14日(火)のEnglish Caféでは、「クリスマス」をテーマとして、クイズや絵本の紹介、フリートークなどを行い、日本と外国のクリスマスの違いや過ごし方、子どもの頃のクリスマスの思い出などについて話しました。

学生たちは、英語で伝える難しさを感じながらも、和やかな雰囲気のなかイベントを楽しみました。

国際文化交流学科と幼児教育保育学科の学生が「クリスマスはとりぎん文化会館であそぼう!!!」に参加しました!

12月25日(土)・26日(日)、とりぎん文化会館にて開催された「クリスマスはとりぎん文化会館であそぼう!!!」に、鳥取短期大学の国際文化交流学科と幼児教育保育学科の学生が大学のマスコットキャラクター「とりたん」と一緒に参加しました。

学生は、短大での学びを活かしたブース「とりたん生とワクワク体験!!! ~うたあそび・大型人形劇・おはなし会~」を設けました。

国際文化交流学科の学生たちは、かるたやぬりえ、おはなし会を通して、日本の文化を知っていただいたり、実際に学生たちと触れ合ったりすることができる空間を提供し、おはなし会では、文化の多様性を伝えるため、同じ絵本の日本語版と英語版を交互に読み聞かせるなどを企画しました。

幼児教育保育学科は、「うたのおにいさんおねえさん」と「大型人形劇(2演目)」を披露し、来場されたみなさんと一緒に踊ったり、じっくりと人形劇の世界を楽しまれている姿に、保育士や幼稚園教諭をめざす学生たちも、自然と笑顔があふれる一日となりました。

コロナ禍で今年度も公演機会が少なくなりましたが、この2日間で延べ190名の方と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。来年度こそは各地で多くの方とお会いしたいと思います!



「とっとりプラットフォーム5+α」の取り組み紹介



各参加者をオンラインで接続して開催



白鳥氏による講演(ライブ配信)

共同防災研修会を初めて開催しました

防災士の資格取得者や地域の防災活動などに興味を持つ学生や教職員を対象にした共同防災研修会を1月12日(水)に初めて開催しました。

研修会では、それぞれの高等教育機関での取り組み状況を共有するとともに、鳥取県災害福祉支援センターの白鳥孝太氏に「防災士としてできる地域の活動」についてご講演いただきました。

参加者からは「講師の話は具体的な活動をイメージしやすかった」「メンバー間で気軽に情報交換できる仕組みを作ってはどうか」等の意見も出るなど充実した時間となりました。今後もこのような機会を設けたいと思います。

共同研究事業報告会を開催しました



1月14日(金)、課題解決および目標達成に向けた共同研究事業の研究成果を、行政や構成団体のみなさまにフィードバックする共同研究事業報告会を開催しました。今回は、「地域リスクマネジメント体制の強化」をテーマに、3件の研究成果が発表されました。

1. 「鳥取県における気象災害の動向とリスクマネジメントの検証ー気象情報のWeb公開と防災アラート速報の配信ー」
公立鳥取環境大学 環境学部環境学科 重田 祥範 准教授
2. 「自主防災組織困難者のためのSNSを活用した災害情報ネットワークの構築」
鳥取短期大学 生活学科住居・デザイン専攻 清水 文人 教授
3. 「津波災害が予想される地域での住民主体による「事前復興まちづくり計画」立案のプロセスに関する研究」
鳥取大学大学院 工学研究科 浅井 秀子 准教授



会場とZOOMによるライブ配信のハイブリッド型で開催

「ほっと・くつろぐポケットパーク」アイデアコンペを実施しました

令和7年春に開館予定の鳥取県立美術館を、学びの場として活用するとともに、県域での機運醸成を図るため、この度、県内の高等教育機関の学生を対象に、倉吉市が整備予定の倉吉パークスクエアと美術館をつなぐ一角を「ほっとくつろぐ空間」に改造するためのアイデアコンペを行いました。15作品の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作2点を選定し、最優秀作品については、倉吉市長に具現化をお願いしました。

- ◇入選者
- | | |
|------|---------------------------|
| 最優秀賞 | 民野美子・鳥取短期大学「Flat(ふらっと)」 |
| 優秀賞 | チーム遠藤・公立鳥取環境大学「プレイストリート」 |
| | 3am・米子工業高等専門学校「時を忘れる」 |
| 佳作 | CITA・鳥取大学「とっとりぶらっとパーク」 |
| | だいちゃんず・鳥取短期大学「切り株×くつろぎの場」 |



倉吉市長への要望



最優秀賞

第12期「まめんなかえ師範生」7名が誕生!

11月3日(水)、17日(水)、21日(日)の3日間にわたり、鳥取看護大学で、第12期「まめんなかえ師範塾」を開催しました。

「まめんなかえ師範塾」とは、県内各地域の健康づくりを行うリーダーやボランティアを養成する取り組みで、12期は7名が参加し、12期までの修了生は135名となりました。1日目は開講式に続いて、「[まちの保健室]基礎論」をはじめ4つの講義がありました。2日目は、計測機器の扱い方の実習に加え、拠点型「まちの保健室」を見学しました。3日目は、計測からミニ講話までの「まちの保健室」を運営し、さらにその後はグループワークを行いました。参加者からは、「健康への学び、地域のつながりの大切さを知り、参加して良かった」との声が聞かれました。

